

研究の構想

学校教育目標

○進んで学ぶ子 ○最後までがんばる子 ○思いやりのある子

目指す学校像

笑顔いっぱい
学び合う
大間野小学校

目指す児童・生徒像

(小中一貫教育第2期)
個を磨き、より良い未来
を選択できる児童・生徒

目指す教師像

○健康で明るく、人間性豊かな教師
○情熱・使命感・責任感を持つ教師
○協力・協働し、学校の教育力を
高める教師

研究主題

運動に対する必要感をもたせる体育授業と運動好きな児童の育成
～3つのゴールを目指して～

<3つのゴール>

- ①運動好きな児童100%の達成
- ②新体力テストにおける個々の体力目標の達成
- ③体育指導に自信のある教師の育成

研究のキーワード
「必要感」

研究の仮説

一人一人が「必要感」を感じる授業を行えば、だれもが主体的に学び、楽しさを味わい、自己の伸びを実感できるであろう。

研究の組織

校長・教頭 → 研修推進委員会 → 部長会 → 授業支援部会 → 学団部会（低・中・高）
→ 授業外支援部会 → 体力向上研修全体会
→ 家庭連携部会

研究主題の設定理由

本校では、平成25年度から体育科の研究を続け、本年度で9年目を迎える。研究を始めた当初こそ、児童の新体力テストの結果や運動に対する意識の向上が見られたが、平成29年度を境に児童の体力や意欲の低下が見られるようになった。そこで、新学習指導要領で示された国が目指す体育科の目標を達成し、本校の児童や職員に合わせた、新たな視点での研究を進める必要があると考え、令和元年という節目の年に、これまで6年間続けてきた研究主題を一新し、これまでの研究を引き継ぎつつも、新たな思いで研究を進めることにした。

新たな研究主題のキーワードは『必要感』である。この『必要感』とは、「やらされている」・「準備されすぎている」という教師主導の学びではなく、「児童自らが課題を見付け、課題を解決するために、どんなことをすればよいかを考え、技能をはじめとした様々な力を身に付けていく学び」である。また、この運動に対する「必要感」をもたせるには、①授業における運動に対する必要感②授業以外の体育的活動における運動に対する必要感③家庭との連携を通じた運動に対する必要感、の3つが重要であると考え、それぞれ①授業支援部②授業外支援部③家庭連携部という3つの専門部会を立ち上げ、各部会で運動に対する必要感に迫る手立てについて検討した。さらに、本研究の目標と成果を明確にするため、達成指標（研究のゴール）を定めた。本研究のゴールは、①運動好きな児童100%の達成②新体力テストにおける個々の体力目標の達成③体育指導に自信のある教師の育成の3つである。そこで研究の概要と成果、課題について紹介する。

授業支援部会

● 9年間を見通した「年間指導計画」の作成と実践

指導内容の確実な定着を図るためには、単元の目標を基に、毎時間の指導内容を明確にし、単元を意図的・計画的に配置することが重要である。そこで、小学校・中学校で連携し、9年間を見通した年間指導計画の作成を行った。これにより、過去の学習内容とこれからの学習内容が把握でき、見通しをもった指導ができた。また、それぞれの学年での目指すべき児童・生徒像を定め、「ここまでは必ずできるようにしておく」という最低限のゴールを定め、より授業の質や技能の向上を図ることができた。さらに、お互いの授業を見合う研修会も積極的に行い、中学校へのスムーズな移行ができるようになった。

● 『必要感』を感じる「ねらい」の設定とこれからの本校の体育授業スタイルの確立

児童が「取り組みたい!」「解決したい!」と思える体育授業を実践するために、本校は研究のキーワードを『必要感』としている。そこで児童にとって「必要感のあるねらい」を明確に示すとともに、「導入」→「展開」→「整理」のつながりを意識した指導と評価を、どの教員も実現できるようにするため、体育授業のモデルを作成した。また、発達段階に応じた低・中・高学年の授業の流れの例示も作成し、体育授業に自信のない教員も授業の型が分かり、自信をもって授業に臨むことができるようになった。

子どもにとって「必要感」のあるねらい(課題)の設定
 「必要感」とは一めあてを達成したい、運動したいと思えるようにすること
 ○子どもたちと共に「盛り上げる」

→(前回の振り返りや体育ノートの記述、相々の動きなどから)
 前回どうだった? 今何が必要? どんな運動がしたい? ...など子どもたちの「やりとり」を大切に!

○子どもたちの「言葉」でつくる—(教師が提示せず、生徒自ら話し、実際に応じる)

今日は○○と○○だね。○○な練習をしたいんだね。—子どもたちから出た言葉は、実は教師が立てていた「ねらい」の言葉に合うように

○知識・技能
 ⇒「～できるようにしよう」「○○で膝を決めよう」「～で動こう」

○思考・判断・表現
 ⇒「～を考えよう」「どうすれば○○になるだろう」

○主体的に学習に取り組む態度
 ⇒「～を楽しもう」「運んで○○に取り組みよう」

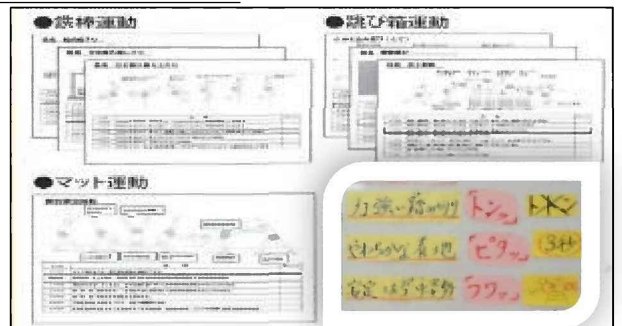
○子どもたちが「主体」—(必要感のある声かけから、主運動へ)

展

必要感を感じて取り組む授業のスタイルが確立されています。

● 「器械運動レベル評価表(ルーブリック)」の作成と授業での活用

どの教員が教えても平等な評価ができ、指導と評価の一体化を図るため、器械運動における技ごとのレベル評価表(ルーブリック)を作成した。その際、1つ1つの技の段階をスモールステップで表し、ここまでは身に付けたいB基準やさらなる応用のA基準を設定することで、児童の意欲の向上を図った。また、教師だけでなく、子ども同士でも活用できるように、オノマトペや簡単な言葉でポイントを表記することで、児童同士も積極的に活用し、お互いの学び合いや教え合いがより活発になった。



● 一目で分かる授業の流れや児童自身が活用できる掲示物の作成

毎時間の授業をより充実させ、必要感を感じる授業にするために、掲示物の作成方法やポイントについての補助資料を作成し、教員同士での共通理解を図った。その際、事前に準備した資料ばかりではなく、児童の発言やアイデアをその場で記録できるような掲示物や毎時間の授業の流れやこれまでの学習が一目で分かる掲示物を作成した。これにより、児童が迷ったり困ったりした時には、板書を確認する姿も数多くの場面で見られ、授業に対する意欲の向上を図ることができた。



● 養護教諭と連携した「保健学習」の実践

保健学習では、養護教諭との連携を年間指導計画に位置付けている。担任だけでなく、養護教諭とチームティーチングを行うことで、より専門的な内容や体験、実験を行い、普段の生活と関連付けた学習を展開することができた。また、そこでの学習の内容を通信にも載せ、家庭とも連携して、より児童の健康教育への意識を高めることができた。



授業外支援部会

●「新体力テスト大会」の実施と授業改善の視点

学年	性別	学年
4年	男	4年

項目	目標値	自分の結果	達成率
1年目標	秒	秒	☆
2年目標	秒	秒	☆
3年目標	秒	秒	☆



毎年行っている新体力テストを、児童にとって、より意欲的で必要感を感じる活動にするために、クラスごとに競い合う「大会形式」で実施した。具体的には、個人で3つの目標を設定し、その目標をクラス全体で何パーセント達成したかで競い合った。その際、個に応じた目標を設定するために、前年度に行った体力プロフィールを活用し、そこに記された次年度の第1目標から第3目標を個人の目標として設定した。

新体力テスト大会という目標に向け、児童の運動に対する意識が高まった。また、運動が苦手な児童も、目標が自分に合ったもののため、積極的に授業や体育的活動に参加するようになった。さらに、学年や学級の体力課題がはっきりすることで、普段の体育授業においても、授業の質の向上を図ることができた。

●遊具を利用した「遊具チャレンジコーナー」の設置

校庭にある遊具を使って、遊びながら自然に体力が高まるように、「遊具チャレンジコーナー」を作成した。また、遊具ごとにレベルを分けることで、低学年から高学年まで幅広く挑戦できるようにした。

家庭連携部会

●運動と健康の両面を考えた「おおまのパワーアップ通信」の発行

家庭においても、運動の習慣化や保護者との連携を図るために、自宅で行うトレーニング方法や養護教諭による生活アドバイスなどを、「おおまのパワーアップ通信」と称して、月に2回程度のペースで発行した。その際、親子で一緒に取り組める活動や練習すればするほど記録の向上ができる運動など、児童にとって必要感や楽しさを感じる運動を掲載した。

●自宅でも楽しく取り組める、運動のポイント動画の配信

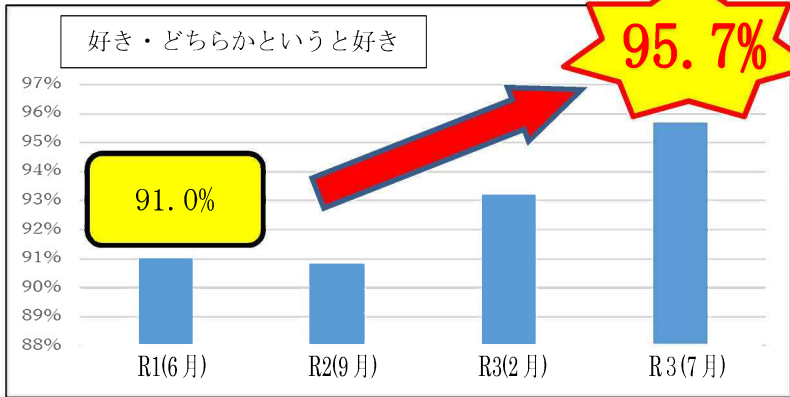
学校ホームページ上に、運動のポイントや親子で取り組める楽しい運動などについての動画や資料をアップし、動画を観ながら先生と一緒に体力アップができるようにした。特に新体力テスト大会に向けてのポイント紹介や運動会前の「速く走るポイント」など、児童が運動に対して必要感を感じられるような工夫を図った。

本校ホームページより

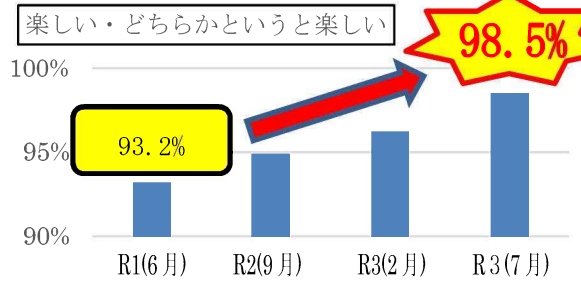
研究の成果と考察

①運動好きな児童100%の達成について (児童アンケートより)

①あなたは、運動することが好きですか？



②あなたは、体育の授業が楽しいですか？

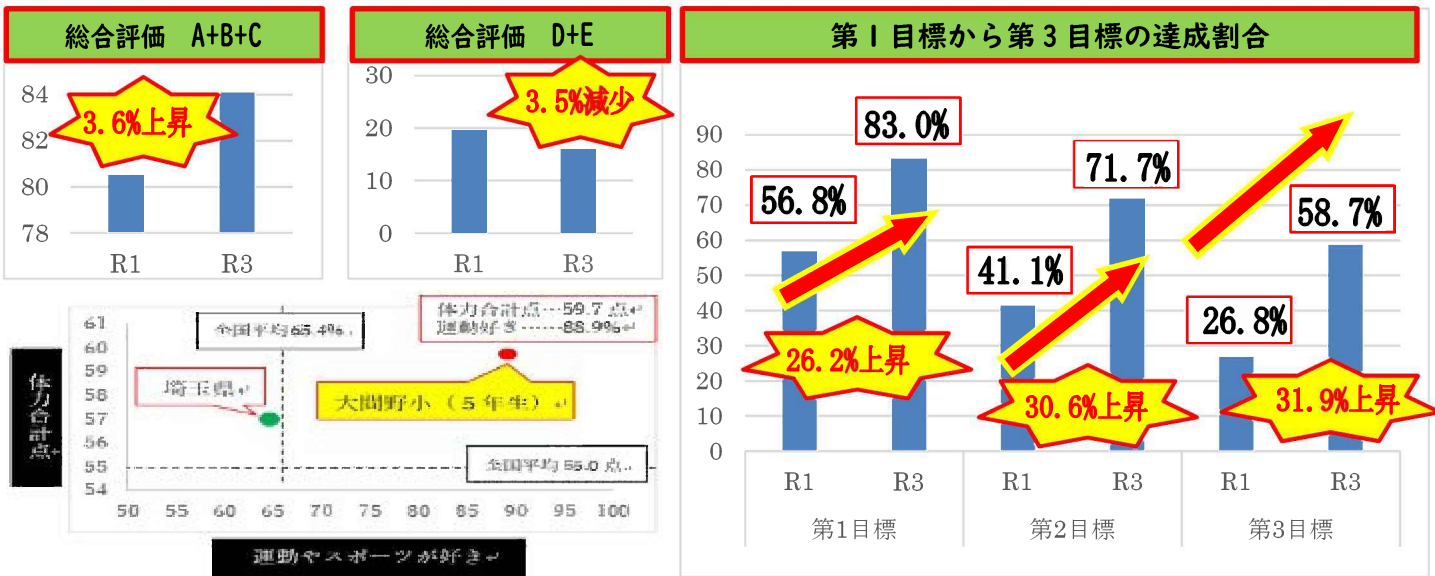


③「運動が嫌い」と答えた児童の感想より

- (3年W・A)体を動かすことはきれいだけど、体育はチームで協力し、みんなでできるから楽しい。
- (4年R・S)体育授業は45分も運動するので大変だけど、色々なゲームや競技があって、最近は運動が楽しくなってきた。
- (5年A・Y)私は走るのが嫌いですが、体育の授業は好きです。理由は体育の授業は自分でやれることが多いからです。
- (6年A・T)運動は得意ではないけれど、自分の意見が採用されたり技が成功したりするとすごくうれしいから楽しい。

「運動好きな児童100%の達成」について、現在では95%を超えるまで伸ばすことができた。その要因として最も大きいのが、児童の体育授業に対する意識の変容である。現在では、体育授業が「楽しい」・「どちらかというとき楽しい」と答えた児童は全体で98%を超えた。また、運動嫌いだと答えた児童の感想より、これまでの研究による必要感のある体育授業に向けた授業改善が大きく影響していることが分かった。しかしながら、本校が目指すゴールはあくまで運動好き100%であるため、更なる研究の継続や工夫が必要である。

②新体力テストにおける個々の体力目標の達成について (新体力テストにおける集計結果より)



「新体力テストにおける個々の体力目標の達成」について、総合評価A+B+Cの割合が84.1%と埼玉県の目標値である80%を大きく超えることができた。また、第1目標から第3目標の達成割合についても、令和元年度に比べ本年度は全体で約30%上昇し、児童の体力が高まっていることが分かった。その要因としては、①体育授業や体育的活動に積極的に参加するようになった、②新体力テストへの意欲や動きのポイント理解が向上した、③運動が「楽しい」→「もっとやりたい」→「好き」へと児童の意識が変容した、この3点が大きいと考える。

③体育指導に自信のある教師の育成について (教員アンケート結果より)

<先生方の声> (成果)	令和元年度			令和2年度			令和3年度		
	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	
とても自信がある	0%	0%	11.8%↑	0%	0%	11.8%↑	0%	0%	
まあまあ自信がある	23.5%	31.2%	52.9%↑	23.5%	31.2%	52.9%↑	23.5%	31.2%	
あまり自信がない	70.6%	56.3%	23.5%↑	70.6%	56.3%	23.5%↑	70.6%	56.3%	
まったく自信がない	5.9%	12.5%	11.8%→	5.9%	12.5%	11.8%→	5.9%	12.5%	

<先生方の声> (課題)

- 新しく大間野小学校に着任し、まだ大間野小の体育授業の流れが身に付いていないから。

研究の円滑な受け継ぎが必要

「体育指導に自信のある教師の育成」について、令和元年度から徐々に自信なしと答える教員が減り、自信があると答える教員が増えてきたことが分かった。先生方のコメントよりその要因として大きかったことが、①研修に対する意欲の向上、②授業の流れや年間指導計画の整備などによる安心感、の2点が大きかったことが分かった。しかしながら、毎年のように教員が入れ替わり新しく来られた教員は特に「自信がない」と答えることが多く、これまでの研究の円滑な受け継ぎが必要であることが分かった。